

新年度に向けて

NSNは、平成8年に当時の3団体で立ち上げ、当初は「シニアセミナー」の開催と同期会の結成支援だけを目的にしたいわば「シニアセミナー」の実行委員会のような組織でした。その後NSN加入団体が増え、全員を対象にしたアンケートなどでもオールNSNの「懇親パーティ」とか「旅行」等の要望が出てきたので、本来連合体としてやるべきものや個別の会ではやれないものを「NSNの事業」として逐次実施してきました。

しかし事業数が増えるとともに実行委員の負担が増大し、且つ一部の人に集中する弊害が大きくなったため、この数年は事業数の削減や簡素化などの見直しを進めています。

初心者麻雀教室や競技大会・合同バス旅行・ボランティア会議は中止、公開講演会も年3回以上を年2回に、シニアセミナーはこれまでの2日制を1日制に、チャリティ・クリーンウォーク(CCW)も参加費を無料にする代わりにウォーク後のイベントはやめて、各会別の自由行

動にするなどなるべく手数のかからないやり方に変えて現在進行中です。サマーフエスティバルも課題だった参加者増加の見通しがほぼ出来たので、今後は事務局や世話人の負担軽減を検討していきたいと思います。詳細は各委員会で詰め、実行することになります。

また今年から第3期として視点を変えて再出発する「ついの住まいの研究会」やNSN会報等の広報関係も工夫を重ねながら継続します。

ここ数年NSNは内部を見つめることに重点が置かれたように思われます。毎月必ず「運営連絡会」が持たれていることは今後も大切にしていかなければならぬかもしれません。それはネットワーキングとか連合体では稀有なことでNSNの貴重な財産ですが、一方マンネリになって活力を感じられなくなっていることも事実です。新しい会や女性の意見がもつと反映されるような仕組みを考えなければならぬと思います。どういう仕組みがよいのか役員会や連絡会で今後検討していきたいと思っています。

(山本)

WHCクラブ春季演奏会開催

3月16日の午後、石神井ホールオーケストラの主権者でバイオリニストである西谷国登氏を中心に、チエロの毛利巨塵、ピアノの坂田麻里の三氏によるコンサートが、「大泉学園ゆめりあホール」で開催された。WHCクラブの昨年の春季講演もピアノコンサートであつたが、やはり春を迎えるこの時期には、心安らぐ音楽の場は人々に好感をもたれるのか、今回も136人の参加を得て好評の中、で終了した。

WHCのコンセプトである「質の高い講演を安価に提供する」ことを実現するため、演奏家の方にはボランティア的な感覚での出演を了解して頂いた。秋季には講演会、春季には音楽演奏会のような形が定着すれば、より安定した開催が可能と考えられる。

(WHCクラブ 岡部)

チャリティ・クリーンウォーク

恒例の春のチャリティ・クリーンウォークは3月30日(水)に行なわれます。今年は、石神井公園がゴールです。詳細は配布されたチラシをご覧ください。

(CCW事務局)

《ねりまシニアクラブ》

平均年齢64歳17名で発足したが、23年目の今年は81歳17名となった。従って組織も簡素化しワーキンググループ制は廃止し、今年からはすべての案件を2、3か月前に月例会で、全員で討議・計画することにした。

会員40名の時代はシニア男性

料理塾・公開講演会など多くの行事があつたが、去年は月例会・歩こう会の他は、味噌作りの会（オープン行事）とランチグルメの会2回のみとなった。

今年はWEBで検索・予約し下見なしで実施出来る少人数制の「ランチグルメの会」を、もう少し増やせないかと思っている。

来年は創立25周年記念と2名の米寿のお祝いがあるので、どんな形にするのか、長年の積立金も活用し、非日常体験の出来る楽しい催しを期待したい。（山本）

《四季会》

会としては大した行事をせず春を迎えましたが、会員の中には80歳を越えて今なお、野球・テニス・登山をする強者も居ります。また介護施設で傾聴ボランティアや、貯筋体操（筋力の維持）を指導し、地域の皆さんに喜ばれている方々もおります。

四季会では話飲（ワイン）の会をオープン参加行事にしています

が、同会場で時々「チャイハナトーク」と言う会合があります。

今年は、元通信社記者による「チェ・ゲバラ論」と、某私立中学高校の現職校長先生による「今の子供達と教育」を開催しました。4月30日には、今も1年の半分を現地で暮らしている元新聞社特派員を講師に迎えて、「中東の最新情勢」について話して頂く予定です。問合せは話飲の会へどうぞ。四面参照。

（桑原）

【寄稿欄】

「花も実もある

もう一つの人生とは？」

昨年「シニアセミナー」の基調講演で、「セカンドライフは余生ではない。話しできましたが、NSN内部では花も実もあるもう一つの人生ではないか。」と語りかけましたが、私はまだ、花も実もあるもう一つの人生がどのようなものか、体験していません。

分らないなりに、私はセカンドライフを前期と後期に分けて考えています。前期は上（かみ）さんといは第2の人生で何か特別の工夫や緒に作り上げる人生であり、後期はおひとりさまの人生だと思っています。ドライブの人生設計というようなものはおひとりさまの人生だと思っています。ドライブの人生設計というようなものはおひとりさまの人生だと思っています。ドライブの人生設計というようなものはおひとりさまの人生だと思っています。

では、上さんと私の共同作業で花も実もあるもう一つの人生を作り上げます。併し、それがどのようなものになるかはこれからのご報告を待ちたいと思います。ひとみ会 角地徳久

多くの方の寄稿をお願いします

オープン参加行事のご案内

〔定例行事〕

☆高野台エッセイクラブ

自作の随筆・時事評論などを発表し、懇談しましょう。講師 堀田 剛

(日時) 奇数月第4火曜日 14:00 ~

(場所) 谷原出張所 会議室

(会費) 300円(当日参加者)

(申込・問合せ) エルフ内藤 ☎(6760)2815

☆ボウリング同好会

シニアにも楽しく無理なくできるスポーツです。運動不足解消に、初めての人にもおすすです。

①練馬シニアボウル

(日時) 毎月第2月曜日 12:00 ~ 13:30

②練馬フレンドボウル

(日時) 毎月第1水曜日 12:00 ~ 13:30

(場所) ①、②とも シチズンボウル

(高田馬場駅より徒歩10分)

(参加費) 1000円(ゲーム代)

※①、②のいずれか、または両方に申込可

(申込・問合せ) 睦会 山田 ☎(6760)3306

☆ユーモアサークル

3分間スピーチにより、自然にユーモア感覚を体得しましょう。

(日時) 奇数月第4月曜日 14:00 ~ 17:00

(場所) 谷原出張所(高野台駅下車3分)の予定

(会費) 300円(当日参加者)

(申込・問合せ) エルフ内藤 ☎(6760)2815

☆ミニブリッジを楽しむ会 ♡♡♡

コントラクトブリッジの前半(オークション)を省略・簡単にしたミニブリッジは、初心者もすぐ楽しめるゲームで、認知症予防にもなります。カードさえあればどこでも遊べます。

(日時) 毎月第4水曜日 14:00 ~ 16:30

(場所) 男女共同参画センター

えーる 3階 和室(小)

(会費) 100円(当日参加者)

(申込・問合せ) ひとみ会 角地

☎(3904)8005

☆話 飲(ワイン)の会

自由にお弁当を持ちこみ、飲んで食べて楽しくしゃべりましょう。

(月日) 第1金曜日と第3水曜日が原則

(場所) コミュニティ・チャイナ光が丘

光が丘駅より徒歩5分。HP参照。

(参加費) 500円。飲み物代含む。要予約。

ワイン・ビール・コーヒー・紅茶

(申込・問合せ) 四季会 吉村

☎070(6559)3933

NSN定例運営連絡会 開催メモ

平成28年1月23日(土) 14:00 ~ 16:00

平成28年2月27日(土) 14:00 ~ 16:15

討議内容

①各委員会報告

②各会活動報告

③その他検討事項

(討議内容等省略)

【編集会議に参加して】

編集会議に参加させて頂いたのは今回で2回目でした。前回も感じたことですが、会議の検討資料が、これまで積み上げられてきた過去の編集例と、直近の編集方針の議論を踏まえて、既に十分に検討されて作成されているため、会議の場は本当に必要な議論のみが行われ、極めて効率的に進められていることに改めて感心しました。

編集会議への臨時参加は、日頃NSNの活動に無縁な一般会員の方こそ参加して頂き、NSN活動を支える具体的努力を実感して頂くべき性質のものだと強く思いました。

二三の会 岡部史生

【編集後記】

編集会議に参加した方から貴重なご意見をいろいろ頂いてきましたが、その一つとして、各会からの「近頃の会の状況を掲載することになりました。」会員のひろばは、多くの会員の方からの自由な声を掲載しますが、一方、他の会の状況が判らないというご意見もあります。高齢化も含めて、各会では活動状況も変わってきているとも思われますので、それぞれ如何に対処されているか伺うものであり、自分たちの会の活動に参考になればと思います。

また、寄稿文も歓迎いたします。今回寄稿文の末尾にありましたように、寄稿されたものに関連するものであれば、より一層関心が深まると思われますので、ぜひご投稿ください。

限られた紙面ですが、少しでも改善していきたいと思しますので、多くの方々のご意見をお待ちしています。

丸山

【会員のひろば】

《本と彼女と私》

読み終わったばかりの本に、海外児童文学の題名が多く出てきた。児童文学と侮るなかれ、大人が読んでも面白く、大人なればこそ判るユーモアもある。この楽しさを教えてくれたのは、新婚の頃、近所同士で知り合った、今で言うママ友のKさんであった。

結婚した時、未読の本3冊以外はすべて実家に置いてきた私と違って、彼女の家には二つの大きな本棚にズラリと並んだ本。そして子育てで忙しいはずなのに、テーブルにはいつも読みかけの本が開いていた。この本棚から時々借りたのが、あまり読んでいなかった「海外児童文学」。子供に読み聞かせるのではなく、自分の為に読んでいた。彼女から特に薦められたのが、あの「指輪物語」(トルーキン)。分厚い単行本6冊を渡された時は、さすがに少しひるん

だが、子供を寝かしつけた後、読み始めてみれば、もうやめられない面白さ。この本を読み終わった後の達成感は、いまだに覚えている。後年、映画で話題になった時は驚いた。「昔、読んだことがある」と、子供や友人たちに話した時の彼らの驚いたような顔も、少し愉快であった。

彼女とは転勤のため、離れてしまった。このころ、いつもバタバタしていた私であったが、彼女の家には、ゆったりした時間が流れていた。この家で、子供たちの遊ぶ姿を見ながら、「本」のことを語り合えたなんて、掛け替えのない至福の時であった、と思わずにいられない。

虹の会 中村晴代



《相続アラカルト》

相続、特に問題になる兄弟姉妹(以後、兄弟と略)間の特筆な例について触れてみたい。

子供がいない夫婦の一方(夫とする)が他界したとしたら、人情的には配偶者(この場合、妻)が全財産を引き継ぐのが妥当と思うが、法律(民法)は、夫の兄弟が権利を主張できることがあり、その兄弟が他界していれば、その子供(夫の甥・姪)までが権利を主張できることとしている。これは配偶者を重視しながらも血族に配慮し、直系の次に傍系という考えからくるが、しつこく妻の立場を揺るがしている。

次の事例であるが、配偶者も子

もない兄弟が他界し、他の兄弟が相続することになったが、何となく放つて置いたら、債権者から多額の請求が来て、慌てたということを知ることがある。

相続は権利及び義務の継承なので、必ずしもプラスの財産だけを相続するわけではないということに中々意識が向かない。兄弟間は配偶者とか直系血族と違い、普段の交流が少ないので尚更である。

もともと夫婦の例は、法律で夫が全財産を妻に相続すると遺言していれば、収まる様に配慮しているし、後の例は、財産がプラスかマイナスが分からないときに、マイナスの場合は相続放棄と同じ効果がある限定承認の規定も用意されている。

相続で基本は普段の交流を欠かさず、意思の疎通を図ることが肝要と言える。この意思の疎通をはかることは、家族・親族についてばかりでなく、サークルでも大切な事なのだと思いたい。

一笑会 小林輝昭